



# がんば

島原市立第三小学校  
育友会報  
発行部  
広報部

【第115号】

卒業式

校長 橋本徹也

よび  
火山灰を掃き清  
めて  
卒業式廻ふ

復興は 腕ら  
と 卒業子

ヘルメット 今日

も離さず 卒業す

プリンターに

花満ちゆちて 棠

立ちの目



# 普賢岳に揺れたこの一年間

月 日 曜	学 校 行 事	育 友 会 行 事 ・ そ の 他
6. 1 土	・三小創立記念日 ・緊急避難訓練・集団下校を実施	
3 月	・五年生宿泊体験学習に出発 (諫早少年自然の家～4日迄)	・普賢岳の噴火災害により大火砕流発生 (死者・不明者43名)
4 火	・普賢岳噴火災害により短縮授業	
5 水	・三小・五小の二部授業について打ち合わせ 会実施	・育友会緊急常任委員会 (五小児童受け入れについて協議)
7 木	・五小児童、午後三小に初登校 (二部授業実施)	
8 金		・大火砕流により上木場・白谷町の多数の 家屋焼失
12 水	・普賢岳噴火災害のため臨時休校 (～19日迄 仮転校児童続出)	
17 月	・児童用ヘルメット自宅へ配布	
19 水	・「夏休みのくらし」自宅へ配布	
20 木	・一ヶ月早い「夏休み」に入る	
30 日		・大土石流発生 (鎌田町・北安徳町を直撃!)
7. 2 火	・職員家庭訪問(～6日迄)	
9 火	・五小第一仮設校舎(学級園跡)建設工事 開始	
10 水		・天皇・皇后両陛下、三小体育館に被災者 の御激励と御見舞いに訪れられる
19 金	・全校登校日	
22 月		・育友会代議員会 (二学期の再開について)
8. 1 木	・一学期授業再開式を実施	
2 金		・三小・五小育友会懇親会
3 土	・三五小対面式を実施	
9 金	・プール開始する	
29 木	・五小第二仮設校舎(児童公園土俵跡)建 設工事開始	
31 土	・一学期終業式	
9. 2 月	・二学期始業式	
7 土		・三・五小育友会、三小グラウンドの灰取り 合同作業
10 火		・千本木町・上折橋町に警戒区域設定

月 日	曜	学 校 行 事	育 友 会 行 事 ・ そ の 他
9. 12	木	・ 授業参観	
14	土	・ 通知表配布	
15	日		・ 大火砕流発生（大野木場小学校全焼）
18	水	・ 三小体育館使用可能となる （～日より避難所）として使用	
27	金	・ 台風19号の接近により臨時休校	
10. 6	日		・ 五小、三小グラウンドにて運動会実施
27	日	・ 親子スポーツつな引き大会 （115チーム参加）	
29	火	・ 県総合運動公園へ列車遠足実施 （諫早市）	
11. 16	土	・ 三小・五小合同で避難訓練実施	
20	水		・ 市P連主催降灰対策研修視察に出発 （鹿児島市～21日迄）
12. 1	日		・ 市P連主催バレーボール大会に参加 （11チーム）
25	水	・ 冬休みに入る	

## 一年間の育友会専門部の想い

### 【教 養 部】

教養部長

内 田 憲 一 郎

三小育友会の年間行事予定も決まり、いざ始動という頃になっての普賢岳噴火で、ヘルメット着用、一ヶ月早い夏休み、五小との同居等、子ども達の学校生活も大きく変わりましたが、育友会活動も開店休業の状態で、わが教養部も当初予定していた行事を中止いたしました。そんな中、十二月二十七日体育部主催のつな引き大会への協力、十二月九日二中育友会からの共催依頼があり、教育講演会を学級部と協力してお手伝いいたしました。御協力ありがとうございました。

### 【学 級 部】

学級部長

荒 木 修

学級部の一年間を振り返ってみ



まずと、まず部会内で勉強会を行ない、学級部会の方について方向性・内容等検討しました。又、代議員研修会を六月に予定し、内容等を決定しておりましたが、噴火の為に中止になってしまいました。部会の委員の方には、部会活動に十分な力を発揮していただく機会が少なかったと思いますが、この一年間学級部会で貯わえたものを、次年度の学級部会の委員の皆様へ引き継いでいただき活動していただければと思います。

## 【生活部】

生活部長  
廣瀬 利文

生活部としては当初、町内訪問等いろいろと計画を立てていましたが、普賢岳噴火により計画を断念せざるを得ませんでした。夏休み中に夜間補導を四回と九月より十一月頃迄実施しましたが、子ども達も降灰により外で遊べなくなりました。又、三小の子ども達も二部授業等いろいろと貴重な体験をできたとは思いますが、私は元五小出身で校長先生を初め、役員会員の皆様の暖かい真心に触れさせて頂き本当に有難く感謝している一人です。

三・五小の名のもとに、二つの学校が同じ所で先生も生徒も共に手を取り合って頑張っている姿は大変ほほえましくもあり、又、明日への活力ともなりましょう。困った時はお互い様と言うけれど、なかなかできるものでもありません。助け合う事を誇りとし、これからも続くであろう噴火災害に対しても一つの試練として乗り切っ

ていける強い人間になって欲しいと思います。

私も六年間三小に御世話になりましたが、先生方、地区の皆様のすばらしい人間愛に対し感謝しながら生活部長としての役目を終らせて頂きます。本当に有難うございました。



## 【体育部】

体育部長  
古川 隆三郎

予定した行事のほとんどができなかった一年間、子どもたちには

本心に申し訳なく思います。そんな中で、唯一親子そろってつな引き大会を開催できた事は貴重な思い出となりそうです。噴火災害という大変な時期だからこそやれたのかもしれないですね。来年は、島原が早く元の生活に戻って欲しいと思います。そして、校庭で親子そろってうまい空気を胸いっぱいめまいがする程胸いっぱい吸いこんでスポーツがやれたら最高にいいなあと思います。

## 【交通部】

交通部副部長  
広瀬 由美子

昨年六月、副部長の矢崎さんが転勤されて、そのピンチヒッターを仰せ付けられました。あまり役に立てないまま一年間が終わろうとしています。ただ、この一年で交通安全に対する意識は自分なりに高まってきているのか、無燈火の自転車や右側を走っている自転車を見かけると「あぶないよ」と声をかけたくなります。自転車での交通ルールは軽く見られがちですが、塾帰りの子ども達や、自転車通学の高校生はもう一度、自

転車教室で習ったルールを思い出して安全に乗ってほしいものです。



## 【環境部】

環境部長  
小松 広海

普賢岳の噴火災害という予想もしない出来事でふりまわされた一年でした。これまでの経験が役に立たない事態で、今考えると島原中があわてすぎたのか、右往・左往してしまいました。沈んだ空気の中、早く夏休みが終わり、子ども達が元気に登校するようにになると、やっと町にも活気が出はじめたような気がします。子ども達の元気な姿に大人が救われた一年間



でありました。環境部活動も場当たりではありませんでしたが、なんとか消化する事ができました。御協力ありがとうございました。

【保健給食部】

保健給食部長

黒田美子

初めての部長という大役に、おそろおそろ動き出した矢先、火砕流にみまわれましたが、当初計画した三つの行事のうち一つを実施する事ができました。その中で私は、一つの行事を行なうには、計



画・準備する側とそれに参加・協力して下さる側が一つになってできるものだという事、そして、親子のこにこ顔に「和」ができて、気持ちがなごむものだと思わせていただきました。これからも一つ一つの行事を大切に、子ども達のすこやかな成長を見守っていききたいと思えます。

三小 十一年間

◎ 江崎 秀一

我が母校三小に息子がお世話になり、今年までの十一年間本当に有難うございました。早いもので息子が二年の時、町内代議員を受け常任委員など、高見・児玉・熊本先輩達の指導で何とか？無事？や

れました。

想い出は、町内ソフトのコーチを今年まで十年間やり、今年に残念ながら雲仙普賢岳災害で何もできませんでしたが、今では成人した子や大学生になった子ども達が道で会った時、元気な声をかけてくれる事が一番嬉しく思います。又、白山子供バレーの部長を今年度やりました。今年度の白山バレーチームは、五年生の時から負け知らずで頑張りました。幸せな子ども達です。指導の古瀬・稲葉・鶴田三先生には本当に頑張っ下さったと心から感謝しています。これからも、まだまだ強いチームを作っ下さい。お願いします。島原市立第三小学校、本当にお世話になりました。有難うございました。

三小とのお別れ

◎ 松尾 美英子

この三月、いよいよ二人の卒業式です。一番上の子が五年生の時島原へ帰って来て、二人の卒業で九年間三小にお世話になりました。双子の二人、いつも「同じに」

と心がけてきました。入学式も主人と二人で出席、授業参観・部会も半分半分、廊下を行ったり来たり…。いろんな行事も声を倍にして応援、心配も一度に倍ですが、喜びも倍です。がんばる子が大好きな私は、がんばれ、がんばれとお尻を叩いて前の方ばかり見がちなのを見つめ直し、反省し、勉強させられたのが部会や講演会への出席でした。

これからも、子供と一緒にいろんな事を学んでいきたいと思えます。親子共心が残る三小とのお別れです。



# めでとう

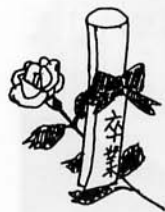
## 贈る言葉



一組担任  
田中 益良

「卒業」という言葉は文字通り「学業を終える」という意味ですが、逆に言えば、これから独り立ちの新しい生活が「始まる」ということにもなります。一つのことが終われば、必ず次のことが始まります。

「生い立ちの記」を書いてわかったように、今の自分があるのは両親を初め多くの方々のおかげであることに感謝し、改めて中学への決意をしっかりと持ってください。勉強をするにしても部活をするにしても常に「求める心」を持って取り組んでください。自分の力を信じ、自分を大切に、すてばちになることなく、一歩一歩着実に努力することを望みます。先生は、中学校からのすばらしい便りを待っています。



二組担任  
橋本 尚子

先日、あられをとまなつて春雷が鳴りひびきました。まさに春の嵐です。新しく芽ぶく春を迎える前の激しい自然の動き。今、小学校を巣立とうとしている子ども達も、これから大人へと成長する過程で、今までの自分を少しずつくずしながら、新しい自分をつくっていくのでしょね。

この一年間をふり返り、(ともするとすべて受け身に流れてしまいうな子ども達だけだ...) 何かに真剣に取り組んだり、相手をしっかりと見つけて聞こうとする時の確かな手ごたえを忘れることができません。又、時おり見せてくれたやさしい気づかいも忘れられないことです。六年生ともなると、大人を甘えさせてくれるんです。一方では子ども達を叱りつけながら、一方では子ども達のやさしさに甘えながらきたことを、今さらながら思います。



それぞれに短所を持っているけれども、それぞれに光る部分を持っている子ども達。大人への一歩をしっかりと踏み出していってくださることを願っています。



# 卒業お

## — 6年生に

三組担任

稲 栄 浩 保

「卒業おめでとうございます。」  
先日、卒業生台帳を書いていたら、今回の卒業式で第三小学校は九五九人目の卒業生を生み出していることに気づきました。毎年毎年多くの卒業生が巣立っていく中で、今年も一一九名が中学校へと巣立ちます。



卒業生のみなさん、私から一言だけ言葉を贈ります。それは「みんな仲間だ」ということです。みなさんのほとんどの人が二中へ行きます。みんな三小の卒業生だという自覚を持って、困っている人がいたら「思いやりの心」を持って接してください。また、中学校では、「二中の仲間だ」ということを持つてください。みなさんは、学校という大きな仲間、仲よしの友達という小さな仲間、それぞれ多くの仲間のひとりだということを持つてください。決してひとりではないのです。

九五九人の三小卒業生の仲間になった君達へ贈ります。

四組担任

松 崎 亮 介

一一九名の皆さん、いよいよ小学校の卒業ですね。  
今の君達は野鳥でいえば、親鳥から巣の中で口うつしでえさをもらっていた段階から卒業したばかり。これから先、自分でまず飛ぶことを覚えなければなりません。

その次に、自分でえさを取ることを覚えなければなりません。そして、最後には、その巣を離れて自力で生きていかなければならない段階が待っているのです。実際の親鳥は、本能的に自分のヒナに厳しくしつけているようです。ヒナ鳥も生きていくのに親鳥をまねながら一生懸命だということを聞いたことがあります。皆さんは、まだまだこれから多くの人達の助けや教えを受ける必要があります。これからは、もう一歩



成長して少しずつ自分の考えで判断し、さらに自分の身体を実際動かし自立した「自分」をつくっていくようにしてもらいたいと思います。でも、その場合、人の意見に耳を傾けることも忘れてはいけません。

これからも、よい意味での挑戦の心を忘れずにがんばってください。



# マラソン大会

なかよしあいこ

マラソン走った。ピストルぼん  
走った。(日記より) 渡部陽一



マラソン大会がんばった。きつ  
かったです。 手島孝幸  
おかあさんのおうえんがうれし  
かったです。 かねこめぐみ  
走ってきつかった。ともかず君

を一回ぬいたけど、またぬかれた。  
ぬきたかった。 近藤孝幸  
がんばってはしった。はやかつ  
た。60ぼんだった。こんどうくん  
をぬいた。 内田とも一

30番でうれしかった。おかあさ  
んは、おうえんにきているかなと  
思って走った。 佐伯 文  
10ぼんになりましたかった。19ぼ  
んだった。きつかった。 かつしんさく

かとうしんさく

一ねん三くみ  
ひらの あいこ

はしるまえに、わたしがおうえ  
んをしていたら、おかあさんが、  
「がんばってねえ」といいにきま  
した。わたしは、がんばるぞとお  
もいました。スタートをしてから  
わたしは、五ばんぐらいでした。  
しばらくして、はやくはしったら  
一ぼんになっていました。そのと  
き、とてもうれしかったです。で  
も、まだどんぬかされて四ぼ  
んになりました。くやしいなあと  
おもいました。はしったあとに、  
おかあさんから「がんばったね」  
といわれたから、うれしかったです。



二年三組  
高田 ゆり

一月二十九日・水曜日に、マラ  
ソン大会がありました。わたしは、  
いっしょうけんめいがんばったけ  
れど、五十番でした。おとうさん  
にいったら、「マラソンは、じゅん  
番ではなくて、さいごまで走るこ  
とがだいじだよ」といいました。  
走っている時は、とてもくるし  
かったけれど、ゴールまでがんば  
りました。

らい年は、走るのもっと長く  
なるので、ゴールまで走れるかな  
あとと思いました。

三年三組  
中尾 美穂

わたしは、カゼでマラソン大会  
を見学しました。みんなが走って  
る時は、白山町でおうえんをして  
いました。白山町に行く時に、み  
んなが「おうえんしてね」とか、  
「がんばって走るから、おうえん



してよ」などと言いました。だから、いっしょうけんめいわたしもおうえんしました。「がんばってがんばって」と何回も言いました。みんなは、ハアハア、フーフー言いながら走っていました。わたしは、みんなにおつかれさまと言いたかったです。来年のマラソン大会は、走ろうと思っています。

#### 四年三組

佐 仲 祐 哉

ドント、ピストルがなった。ぼ



くは走り始めた。走る前もドキドキしていたのに、走りだしたとたんに、もつとドキドキしてきた。何番になるのかなど、走ったあとのことを思ってしまった。「はっ」ときずいて、よけいなことを考えず走ろうと思った。それから運動場を三周走って、もういきがきれ始めた。「きついな、もう走りたくない」とぼくは小さい声で言った。お母さんの顔が頭にうかんだ。ぼくは、さいごまでひしひしに走りぬいた。

#### 五年三組

宮 崎 明 子

一月二十九日はマラソン大会でした。私は走るのが苦手です。一・二・三年生の時さぼりました。四年生から「これではいけない」と思い、走るようになりました。

今年もピリでした。くやしかったです。だれかをぬきかけたんです。でも、とつともうれしかったです。それは、五年三組の友達やお母さん達が応援してくれたからです。なかでも一番うれしかったのは、ゴールで校長先生が「明子さん、ようがんばったね」とおっしゃりながらあく手をしてくださったことです。また走りたいな。

#### 六年四組

小 島 慶 子

「ドクン、ドクン」心臓の音が体中に響く。小学生最後のマラソン大会。良い思い出作りに精いっぱい走るぞと心に決め、スタートラインに立つ。「バーン」走り出すと頭の中は真っ白。足だけが前へ前へと動く。のどがかわき息

が苦しい。前を走る人をぬけそうにぬけない。やっとゴール。「二位だ」でも、力を出しきった満足感が心に広がる。それぞれに頑張る六ノ四の仲間。応援する心のつながりを知る事ができたのも、うれしかった。たくさんの思い出を残し、マラソン大会が終わった。さあ又、自分の可能性に向かってトライ!!

### 育友会活動の活性化について

育友会長 友 永 峰 昭

長崎県で一番東にある学校、それが私達の第三小学校です。普賢岳の災害以来、その座を仮設の五小に譲つての三小・五小の共存生活。かつてない体験だけに大変心配しましたが、子ども達は賢く、そして仲よく三小狭しと走りまわっております。

今、自然の脅威は試練となつて私達の物質社会に降りかかつてきています。この様な時だからこそ、清新で人間的な思いやりのある温かい心を大切に育ててゆきたいと思ひます。

さて、この一年は噴火災害によ

り制約された育友会の実践活動でしたが、しかしそれは一方で、育友会活動を見直す良い機会にもなりました。

懸案でありました役員員の負担を軽減し、より多くの会員の方々に参加頂く様、役員選出方法を変えたこと。更には、八つの専門部を七部に統合したことなど会則の改正を行なつたことでもあります。ゆとりと創意に満ちた学校づくりを目指し、学校、家庭、地域が一体となる様協力方お願いします。

最後に、会則改正に尽力下さつた皆様に厚くお礼を申し上げます。

# 噴火災害に負けず頑張る ——五小広報部の皆さん——



噴火災害以来、各地に分散する仮設住宅での生活は、地域での保護者と子供の絆を新ち、子供会や育友会活動も停滞を余儀なくされているようです。避難生活の続くその中で、広報部の皆さんは今迄に三回の広報誌(「梅ん花」)を発行され、なかなか企画・編集会議もできない中で情報収集の奮闘し、紙面作成をやりとげられている様子が感じられ、又、困難辛苦を乗り越えて頑張っている思いがひしひしと感じられました。三小に五小が併設され、三五小(三小と五

小の子ども達が珊瑚礁のように仲良く美しく)を合言葉に、今後とも三五小とのコミュニケーションを通じて、よりよい広報誌作りをしていきたいと思っております。  
(広報部)

## 新任一年生の思い出

### 不十分過ぎる私

上野綾子先生

教師の愛は、お返しを要求しない、限らない願いの保護者の皆様方の愛に近づくことだとT先生に教えていただいた。一年間、このことばを胸に動いたつもりだが、振り返ってみると情けない程「—したのに……」と、お返しを要求している場面があった。

新米で不十分な私に、「先生、失敗ばかりするねえ、よお泣くねえ、でも大好き!」と言ってくれた子ども。申し訳なさでありがたさで胸がいっぱいになる。「精一杯ひたむきに生きること」で、子どもたちの想いに応えたい。

## 子どもと共に

### この一年

竹山清美先生

泣いたり、笑ったり、おこったり、喜んだり、私の一年間は本当にいろいろなことがあった。四月、三十五名の子ども達と出会い、これからという時に、普賢岳噴火による早期夏休み、子ども達の仮転校と、会いたくても会えない日が続いた。それから八月、授業が再開され、長い長い二学期も終り、そしてもう三学期も終わろうとしている。この一年、子ども達に教えたことより、子ども達から学んだ

この方が多かったように思う。これからも、「一生懸命」を motto に、子どもと共に成長し続けたいと思う。



## 編集後記

三月に入ると、いつもなら初市風が吹き、春のおとづれを感じるのに、火山灰まじりの風が吹き、目も開けられない程に春一番が吹いています。又、火砕流の発生以来、学校行事や育友会活動もやむをえず中止しなくてはなりません。そういう中で、早い夏休みが終わり、子ども達や育友会活動が少しずつ活気がついて来た様子や、今の実態を少しでもお知らせできたらと思ひ、部員一同取り組んできましたが、いよいよ平成三年度最後のがんばら「一一五号」をすべての想いを込めてお届けすることになりました。皆様御協力ありがとうございました。  
(広報部一同)

